

1. 整備組織名 産官学連携戦略本部

2. 大学からの報告

(1) 当初計画（大学知的財産本部整備事業）

本学の中期目標・計画に「学内外の研究連携による総合的・学際的研究を活発に展開し、新技術の創造や新産業の創出に貢献し、これらの成果を広く学界、産業界、地域社会に還元し、以て研究面における社会的責任を全うすることを目標とする。」ことを掲げ、知的財産の創造・保護・活用に関し、以下の当初計画が評議会において合意された：

①職務発明は、原則として東京農工大学に帰属する、②共同研究開発センターを改組し、VBLと統合して「産官学連携・知的財産センター」（以下、センター）を設置する、③ベンチャー指向の強いプロジェクト研究及び産学官連携による研究を促進支援し、知的財産の創造・保護・活用を農工大 TL0 を活用しつつ、積極的かつ戦略的に推進する、④外部人材を活用しつつ民間等との交流人事等により計画的養成する、⑤権利化・権利維持のために適切な予算措置を講じる、⑥研究評価尺度の一つとして特許申請・取得等の実績も利用する。

(2) 自己評価

整備事業の下に、知的財産の創出・管理・活用の体制整備とその活動、利益相反マネジメントの実施、秘密保持・紛争予防体制の整備、競争的資金獲得、国際的な産学官連携活動、インキュベーション活動支援、人材育成、センター自己点検・外部評価等につき実施した。体制整備の状況、各年度における計画的目標値とその達成状況については産学官連携の成果の通りである。リエゾンコーディネータ、研究コーディネータの配置とイノベーションラボ設置協定等組織連携により、最終年度である平成 19 年度外部資金は 34.1 億円（受入ベースは 41.1 億円）となり、5 年間に亘り順調に増加した。

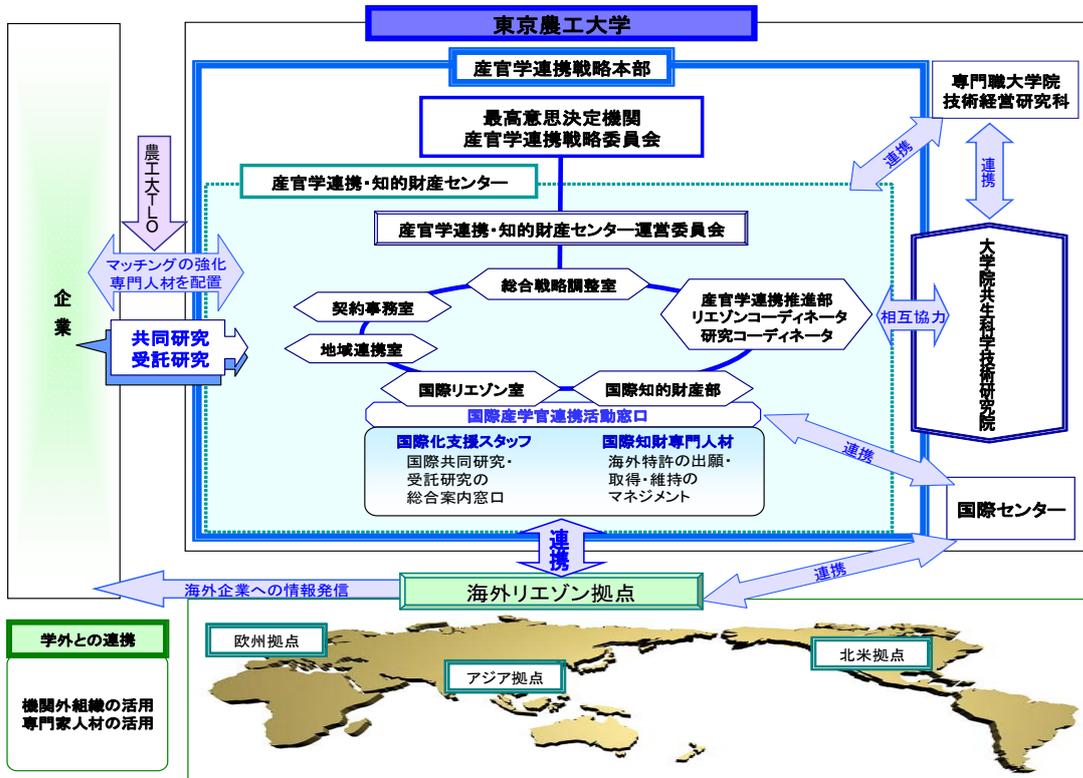
本整備事業に基づく活動により、本学の産学官連携活動の体制整備が図られ、イノベーション創出と新産業創出活動の活性化と拡大がなされ、今後のグローバル産学官連携活動の一層の強化が期待できると共に、本学の教育と研究に大きく寄与するものと自己評価する。

3. 審査・評価小委員会における評価

<評定要素>（平均点）				
① 3. 6点	② 3. 5点	③ 3. 1点	④ 3. 3点	⑤ 2. 9点
<コメント>				
<p>国際展開を念頭に置いた活動である国際知財スタッフとコーディネータによる発明の発掘活動については、着実に取組が進められ、定着が図られた。特に、部局に配置したコーディネータ制度が機能している点や、外部評価の実施は他大学の参考となるモデルである。また、人材育成と優秀な人材の正規の職員への登用は若手のやる気を引き出す手法として評価できる。</p> <p>ただし、今後の自立に対する戦略が明確でなく、知的財産の活用件数がやや低調であるとともに、外部資金の獲得では、科学研究補助金等では順調な増加が見られるが、共同研究費、受託研究費、そしてライセンス等収入に関しては横ばいで顕著な実績に繋がっていないといった課題が残った。</p> <p>今後は、大型、かつ包括的な共同研究等への取組やその支援体制を整備することが重要であり、また、「今後の課題」に対して、具体的にどの様なアクションを取るべきか明確にする必要がある。</p>				

東京農工大学

◎事業終了時の体制図（平成20年3月時点）



◎成果事例

画像解析による創薬および医療評価技術

国立大学法人東京農工大学
産官学連携・知的財産センター

要約

【要約】

東京農工大学の研究成果である本技術を農工大TLOが(株)ノバルテック(神戸市)にライセンスする形態で技術移転を実施した。同社は、実験動物の引っかかり行動観察システム「SCLABA」を2002年に、実験動物の歩様異常評価システム「GAIT」を2005年に相次いで製品化。製薬会社や臨床検査会社等向けに売上を順調に拡大している。本技術は、「イノベーション・ジャパン2004」にて「USBアワード特別賞」を受賞している。

実験動物行動解析システム



「SCLABA」(左)はアレルギー疾患マウスのスクラッチング(擦過行動)をストレスを与えずに長時間観察し、定量化する。

「GAIT」(右)は、ラットの歩様異常を自動検出し、評価。高齢者に多い関節炎などの創薬開発に貢献している。

創出

産官学連携のきっかけ(マッチング)

大学教員が持つ研究シーズを具現化し、社会に広く還元するために大学発ハイオープンチャー企業設立を決定したこと。2002年4月に設立。その後、知的財産本部の支援により、学内インキュベーション施設に入居した。

共同研究

国際的な大手食品企業と大規模な共同研究を推進中。
このほかNEDO「大学発事業創出実用化研究開発事業」等の競争的研究開発資金を活用した共同研究が多数ある。

連携機関

- 東京農工大学大学院共生科学技術研究院 教授 松田 浩彦
- ㈱ノバルテック 代表取締役社長 松田 久仁子
- 農工大ティー・エル・オー㈱ 代表取締役社長 伊藤 伸

受賞歴

- 「イノベーション・ジャパン2004」にて「USBアワード特別賞」を受賞

管理

知財管理(特許化、知財保護)

- 特許取得: 国内 1件、海外 0件
「生物運動動作の観察自動化の方法及び装置、並びに特定の運動動作の定量化装置」特許第3796692号
- 特許出願: 国内 2件、海外 4件
「足動解析システム」特願2002-371345

活用

技術移転の概要

●技術への貢献

- ・不完全であった実験動物の引っかかり行動(スクラッチング)評価法を高速かつ的確に評価することを可能にした。
- ・いまだで困難とされていた動物行動定量化の世界標準を捉える、デジタル画像解析を基盤とした「実験動物歩様異常評価システム」を開発した。

●市場への貢献

- ・それまで観察者の目視に頼っていた測定作業に自動化システム市場を創出した。測定の客観性や正確性、情報処理の容易さについても大きく向上した。特に経験の豊富な観察者でないと判断がつかなかった歩様異常検出を最先端IT技術を駆使して自動化した。

●社会への貢献

- ・多数が悩んでいるアレルギー症状の創薬開発を加速
- ・高齢者に多い関節炎など歩様異常を伴う疾病の創薬開発に大きく貢献
- ・新薬開発、病因解明等に貢献すること、製薬会社や臨床検査会社等から高い注目を集め続けている。

●連携体制の特長・波及効果

- ・東京農工大学産官学連携・知的財産センターと農工大TLOが密接に連携し、ノバルテックを継続的に支援している。特に2003年からは農工大の学内インキュベーション施設に入居し、インキュベーションマネージャーのきめ細かい支援を受けている。
- ・ライセンス収入は、農工大、研究者に配分され、イノベーションサイクルの加速に寄与している。

実施料等収入の種類

実施料収入
(ランニングロイヤリティ)

実施料等収入(累計)

約346万円
(約346万円)